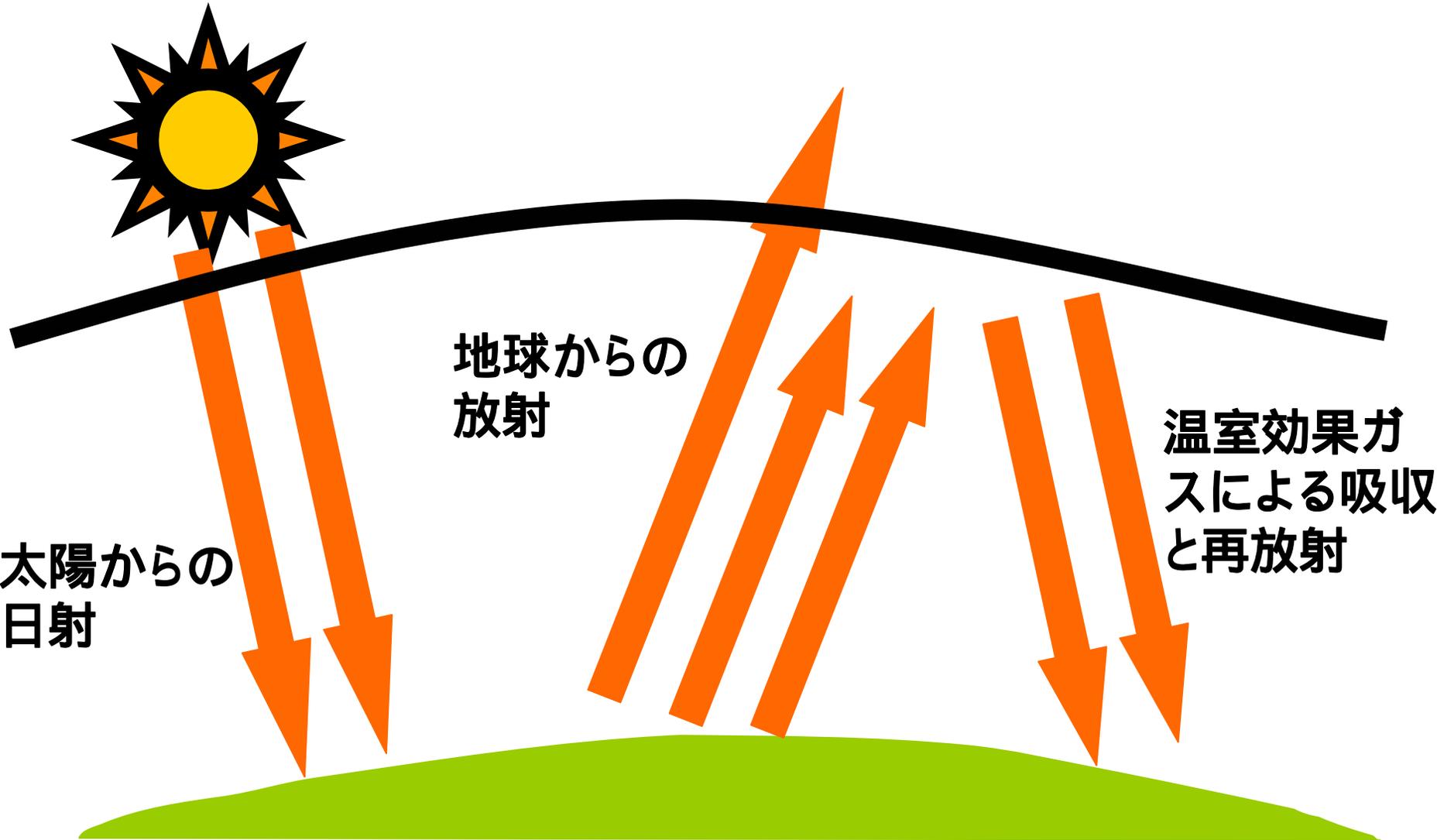


温室効果ガスの大気中濃度が濃くなることによって進行する



太陽からの
日射

地球からの
放射

温室効果ガ
スによる吸収
と再放射

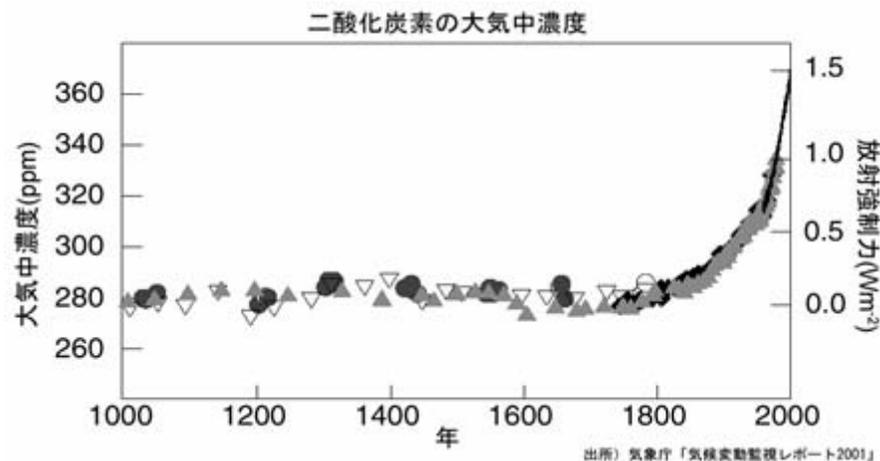
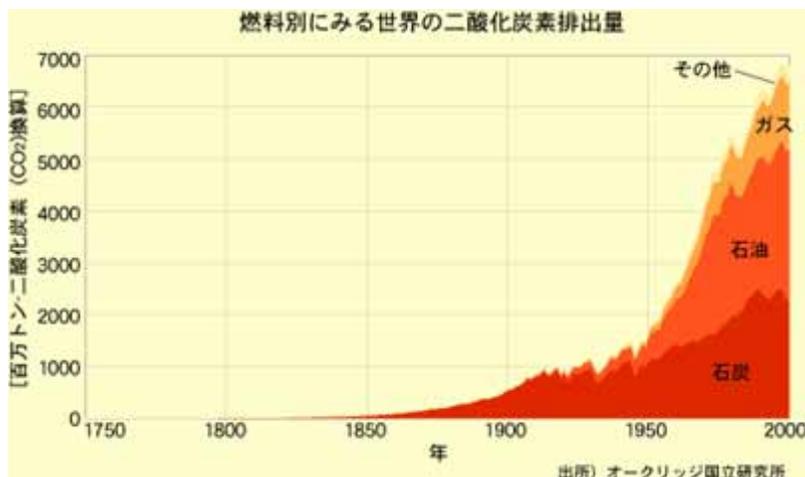


みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

産業革命以降、CO₂の大気中濃度が急激に濃くなっている

- 産業革命以降、人間は石油・石炭などの化石燃料を大量に燃やして使うようになったため、大量の二酸化炭素を排出するようになった
- 産業革命以前は、280ppm(0.028%)で推移していた大気中の二酸化炭素の濃度は2000年には370ppmに達しており、2100年には1,000ppmを超える可能性もある

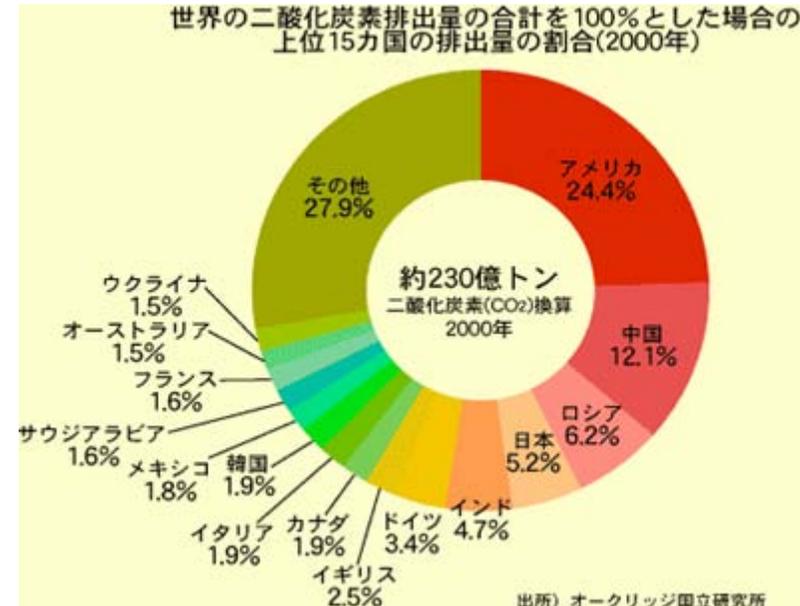


みんなで止めよう温暖化

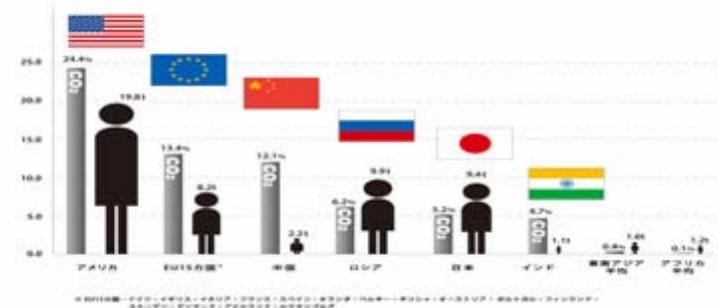
チーム・マイナス6%

世界のCO₂の大部分が米国など先進国からの排出である

- 二酸化炭素の排出のうち大部分は先進国からのものであり、**アメリカ**が全体の約1/4と突出している
- **日本**は、総排出量で世界で4位、1人あたりの排出量で7位の排出国
- 人口が大きく、急激な経済成長を続けている**中国**、**インド**の排出量の増大が懸念される



世界の二酸化炭素排出量に占める主要国の排出割合と各国の一人当たりの排出量の比較 (2000年)



みんなで止めよう温暖化

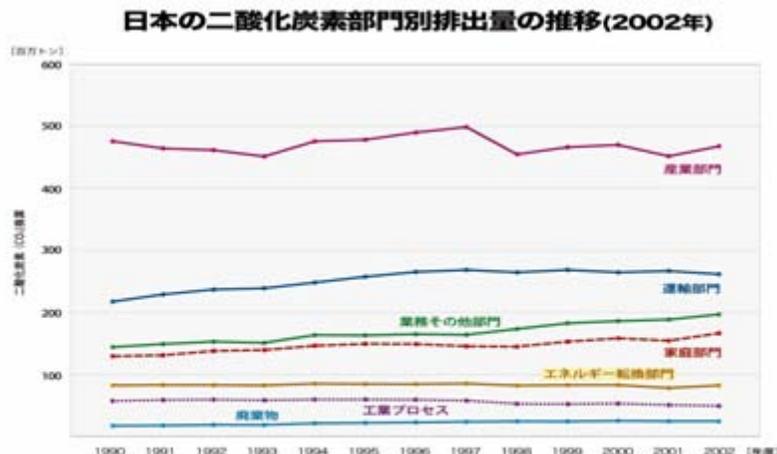
チーム・マイナス6%

日本からの温室効果ガス排出量は増加し続けている

- 2003年度の日本の温室効果ガス排出量は、**年13億3900万トン**であり、**1990年度比で8.3%増加**している
- 排出源別にみると、**産業部門が36%**、**運輸部門が19%**、**業務部門が15%**、**家庭部門が13%**となっている
- 産業部門の寄与度が依然高いものの、伸び率でみると、**家庭部門が一番大きい**



出典: 環境省環境政策評価部 (2004)



出典: 環境省環境政策評価部 (2004)



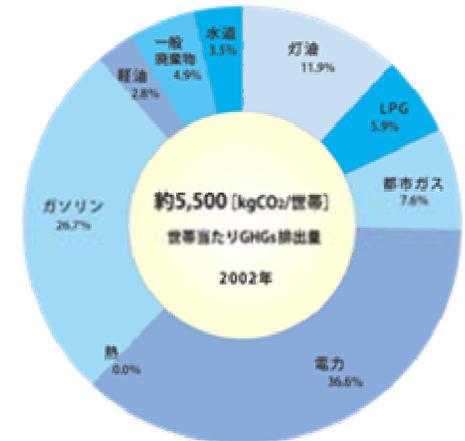
みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

家庭では、自動車利用によるCO₂の排出量がもっとも多い

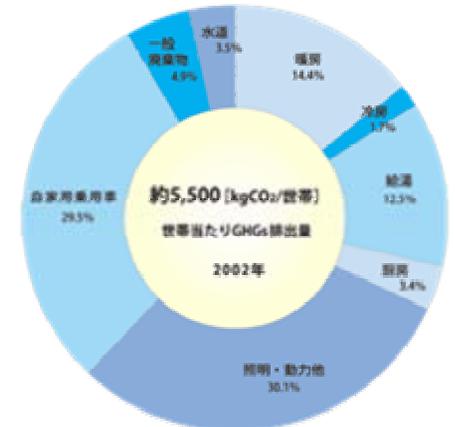
- 1世帯あたり年約6トンの二酸化炭素を排出している
- 家庭からの二酸化炭素排出量は、エネルギー利用によるものがほとんどであり、電力が約37%、ガソリンが約27%を占めている
- 用途別で見ると、自家用車利用とエアコン、冷蔵庫、照明等の電力使用が30%ずつと突出しており、暖房利用が14%となっている

家庭からの温室効果ガス排出量の割合（2002年）
—燃料種別内訳—



出典: 環境省環境政策評価部 (2002)

家庭からの温室効果ガス排出量の割合（2002年）
—用途別内訳—



出典: 環境省環境政策評価部 (2002)



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%